

今日は陸上大会の選手を励ますことが目的の会ですが、これまでの19名の選手の頑張りを、選手ではない、大会には参加しない全校生に知ってもらうことで、選手を励ますことになればと思って体育館のフロアにいるみんなに向かって話をします。

これまでの陸上練習の様子を校長先生が見たり聞いたりした中で、「頑張ってるなあ」「本気でやってるんだなあ」と感じたことから3つのことを話します。

1つ目。

暑さのため、体育館での練習ばかりで、各種目の本格的な練習ができない日が続いたある日、暑さ指数が下がったので、校庭で練習できることを選手たちに伝えた時のことです。その時、選手たちはどんな反応をしたと思いますか？

「やったー！」と大喜びしたそうです。体育館での本格的じゃない練習のほうが、体も疲れないし、痛くならないし、はっきり言って楽です。校庭での練習は、やっぱり暑いし、運動量は多いし絶対疲れるはずですよ。そういう練習になることはわかっているのに「やったー！」という声が出るというのは、練習に、陸上大会に向けて本気になっている証拠だと言えるのではないのでしょうか。

2つ目。

リレーの選手は、バトンパスの練習をしていました。陸上指導の先生に言われてやっていたものではありません。昼休みは、みんなにとってはサッカーもできるし、自分がやりたいことをできる楽しい時間です。その楽しい時間を、自分たちの考えで計画しリレーの練習の時間に充てていたのです。こういう態度を「主体的」と言います。LIMのまさに第一の習慣です。

3つ目。

先週、陸上競技場へ行って練習した時のことです。

庭坂小の走り高跳びの選手は、どの学校の選手よりも早く練習をはじめ、どの学校の選手よりも遅くまで練習をしていました。誰よりも多く、何十回も練習していたということです。何十回もジャンプするのですから、足はもうクタクタだったはずですよ。それでもやめませんでした。

1000mの選手はスタートからトップを走り、残り1周の時点でも抜きつ抜かれつで1位2位を争っていましたが、ところが、残り200mというところで、他の学校の選手と足が絡まり転んでしまいました。自分がそうなったらどうするのでしょうか？ ふてくされてそこでやめてしまう人もいますでしょう。庭坂小の選手も、それまでトップを争っていたのですから、悔しかったでしょう、転んだ痛みもあったでしょう。でも、何位になろうと、また立ち上がってゴールまで走り切りました。

そして練習を終え、どの学校も終わりのあいさつをして帰ろうとしている時のこと。選手の誰かが「庭坂小は声だけは元気だから、声だけはでっけえから」と言いました。これはどういう意味でしょうか。

「庭坂小は、走ったり跳んだり投げたりする競技では、そんなにたくさん優勝や入賞したりはできないかもしれないけど、あいさつの声の大きさや礼儀正しさならどの学校にも負けないぞ」という意味が込められているのではないかと思います。

「あいさつが元気」「礼儀が正しい」「声が大きい」素晴らしいじゃないですか。これを聞いたとき、校長先生は福島県の高校野球チーム「聖光学院」のことが頭に浮かびました。聖光学院は全国的にも強いですが、まだ日本一になったことはありません。でも、校長先生は、聖光学院が試合の前に相手チームや審判に対して行う挨拶・礼、試合に勝っても負けても試合の後に行うそれは、日本一美しい、日本一カッコいいと思っています。福島県の誇り・プライドです。

「庭坂小は声だけは元気だから、声だけはでっけえから」というのもこれと同じだなと思います。

ここにいる庭坂小の陸上選手は、練習でこういう頑張りを見せ、力をつけてきたことを知っておいてください。

さて、選手の皆さん、今日、紹介したこれまでの頑張りは、すべて「自分は庭坂小の代表だ」という自覚・プライドを持っているということを示すものです。

大会当日は、各校20名前後の選手が市内43校から集まります。800名ぐらいになるでしょうか。その中には体の大きい人や見るからに速そうな人などがいて圧倒されるかもしれませんが、順位や記録など、数値に現れるものだけの勝負ではなく、さっき全校生に紹介した、これまでの1か月間の練習で手にしたプライドや数値で表せない自分の心の強さに自信をもって、大会に参加してきてください。